

「水俣」のシーン。タコ取りの名人



長編記録映画

「水俣」

「患者さんと
その世界」

映画という一つの表現形式を
借りてこれほど徹底した「主

張」が行なわれたことはかつて
なかったのではないか。余分な
ものをすべて切り捨てた、単彩な
状況の中で水俣病告発という情
念だけがヒタヒタと打ち寄せる
のである。東プロのネライもそ
こにあったし、水俣病と直接か
かわりあった患者とその家族、
さらに水俣病を自分自身の問題
としてどうえ、共にはい上が
るとする人々の願いもそこにあ
った。

美しい水俣の海。何ことも
なかったようなやさしいさざ波
に漂う漁船群。このあまりにも
平和な母あきが突然カタカタに
切りくずされる。カメラは患者
とこの家庭を克明に執ように追
う。「〇号患者〇〇さん」の字
幕とともにカチャツカチャツと

幻灯のように入れ代わる患者
さんのアップ。五十例ほどあ
るつか。さまざま症状の中か
ら痛恨の叫びが続く。口のきけ
ない患者は主監督自ら代弁す
る。ぼてぼてとおし殺したよう
な低音で私たちの心に語りかけ
る。

中でもいたげな胎児性患者
の生體（ごしか言いがちな
い）には胸が痛む。ステレオの

怨（おん）念がある。

胸打つ絶叫と沈黙

患者の情念を浮彫り

好きな子がいるが耳が聞こえな
い。ポリウムをせいっぱい
上げて、スピーカーの振動を手
ざわりで確かめる。野球の好き
な子がいる。擦切れと石ころで
ホームランごっこ。宙にほうり
上げた石ころはなかなか棒に当
たらない。かたわらにしゃがみ
こんだ母親が「まだまだ。いま
のはキャッチャーフライよ。そ
ろそろいまのはホームラン」ほ

礼屈の来船、一株運動などカメ
ラは患者をとりまく周囲の状況
に転じる。レンズは状況のど真
ん中に突っ込まれているのだ
が、映し出される人たちはまる
でレンズを意識していない。カ
メラは空気のようにそこら中を
勝手になめ回すことに成功して
いる。水俣市の患者宅に五月月
の患者代表だけがポーツとにぶ

あつたのだろうか。記者が取材
に水俣をたずねた日、スタッフ
は市内を車で走りながら、窓ご
しに幾人もの人たちとあいさつ
をかわしていた。完全に市民に
なりきっている風だった。

ソ株主総会への「出撃」。
スゲカサに白装束の患者代表
は万雷の拍手の中を会場へ。ヒ
ナ壇に並ぶチツソ重役だけがラ
イトに浮かび、数千人の株主を
のみ込んだ客席は無気味なエネ
ルギーのかたまりとなつてヤミ
の中に沈んでいる。ただ白装束
の患者代表だけがポーツとにぶ
く光っている。総会ほんの数
分であつという間に終わらうと
する。患者たちの怒りは爆発し
た。激しい怒号とヤジ。街頭社
長に詰め寄り、両腕の位牌（は
い）を突きつけて「死ねー死
ねー」と絶叫する者、妖（ま
ろ）鬼のように詠歌をうなり
続ける者。大混乱の中で観念は
漏れぞく。群衆の中のカメラも激
しく揺れ動くのである。そして
再び沈黙。水俣の海は何ことも
なかったように西日を受けてキ
ラキラと光っている。

（壘）

白黒、二時間四十分。四月十
七日から二十三日まで熊本市グ
ランド劇場で。問い合わせは熊
本市下通一の八の十六豊後ビル
四階（☎5503）上映委員会
まで。